Kansai Rosai Hospital

関西ろうさい病院 広報誌

さぷりめんと

2015-Jun.
No.33

無痛分娩

産婦人科　田島　里奈

■無痛分娩って何ですか？

陣痛の痛みを麻酔でやわらげる分娩方法で、一般的には硬膜外麻酔を使った分娩を指します。日本で無痛分娩を受けられる施設は、まだ、250施設(※)と少ないですが、欧米では、ほとんどの施設で受けることができます。硬膜外麻酔とは、背中に入れた細いチューブを通して薬を注入し痛みをとる麻酔方法です。当院では、持続硬膜外麻酔といって、陣痛の強さ(本人の痛み)に応じて、薬の注入速度を調節する方法をとっています。分娩中の過ごし方は、普通の経腟分娩と変わりません。もちろん、意識はありますし、食事をしてもらっても構いません。ただ、麻酔で足の力が弱くなる場合がありますので、歩行は避けてもらいます。お産が終わり次第チューブを抜きますので、分娩後の過ごし方も、通常の経腟分娩と変わりません。

※（2008年 厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業アンケート調査より）

■本当に痛くないの？

硬膜外麻酔は、帝王切開もできるほど強力な麻酔方法ですが、痛みの程度は、妊婦さんによって異なります。破水などのために急速に陣痛が強くなった場合は、麻酔の効果が追いつかないこともありますし、初産婦さんなどで上手にいきめない場合は、ある程度痛みを感じるように麻酔を調整することもあります。経産婦さんで順調に分娩が進んだ場合は、最後まで、強い痛みをほとんど感じずに分娩できます。

■赤ちゃんに影響はないの？

使用する麻酔薬は赤ちゃんに対する影響が少ない薬剤で、必要最小限の量しか使いません。硬膜外腔に投与しますので、赤ちゃんに移行する薬はごくわずかで、影響はありません。

■メリット、デメリットは？

メリットは、陣痛の痛みをやわらげるので、疲労感が少なく、出産後の回復が早いことです。

デメリットは、費用が高いことや、麻酔の効果のために上手くいきめない方では、吸引分娩になる確率が高くなることです。

■誰でも受けられるの？

高度な肥満の方、椎間板ヘルニアのある方、背中(チューブを入れるところ)に化膿性の病変がある方などへはおすすめできません。又、予約制となっていますので、予定日が決まったら、できるだけ早く担当医にご相談ください。

■費用は？

無痛分娩に健康保険は適用されません。当院では、通常の分娩費用とは別に、使用した麻酔薬の量やお産にかかった日数に関わらず、自費で一律10万円です。

■入院期間は長いの？

通常の経腟分娩と同じで、分娩後5日目に退院です。

「分娩」は、妊婦さんにとっては一生に数回経験するかどうかの一大イベントです。私たちが最も優先させることは、もちろん母体と胎児の安全ですが、次に重要となるのが、いかに妊婦さんやご家族にとって、満足のいくお産にするかです。

多様化するお産に対するニーズの中で、無痛分娩がその選択肢のひとつになればと考えています。

関西ろうさい病院の理念　●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

病院運営の基本方針

・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」中核的役割を担ってこれを推進します。
・私たちは、急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
・私たちは、患者さんの権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。

イメージキャラクター
かんろっこ

Kansai Rosai Hospital

関西ろうさい病院 広報誌

さぶりめんと

2015-Jun.
No.33

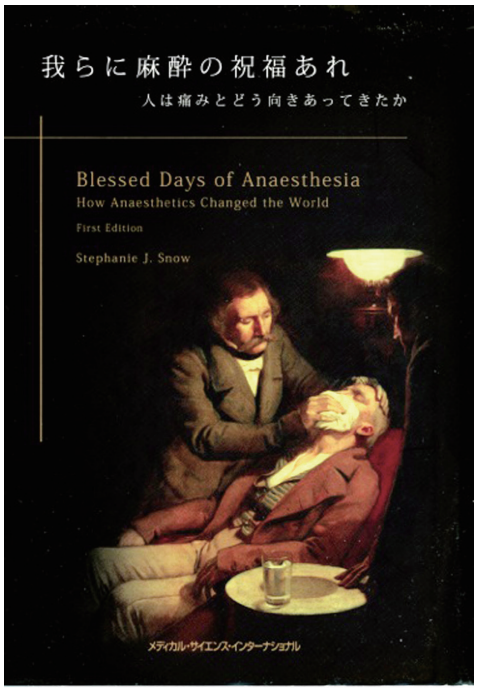
麻 酔 ～安心して手術を受けるために必要なもの～

麻酔科 上山 博史

■麻酔なしの手術を想像できますか？

欧米の外科手術は、19世紀に麻酔が発明される前の、16世紀頃に始まりました。そのため、初期の手術は麻酔なしで行われていました。

「我らに麻酔の祝福あれ」（メディカル・サイエンス・インターナショナル刊）によると、麻酔なしの手術の過酷さを、乳腺炎による強い痛みのため、1811年に英国で乳房切除術を受けた小説家ファニー・バーニーが、次のように手記に記述しています。



ステファニー・J.スノー著
「我らに麻酔の祝福あれ」
（メディカル・サイエンス・インターナショナル刊）

手術を告げられた時、手術の痛みやその他のことを思うと、恐怖と嫌悪感でほとんど何も考えられませんでした。私は混乱し、恐怖さえ感じませんでした。医師から、「あなたは非常に苦しい思いをするでしょう。あなたが不安に過ごす時間を短縮するため、手術開始時間は、4時間前まで教えることはできません。」と告げられました。そして、手術が始まり、“研ぎ澄まされた小刀がギラリと輝く”のが見えると、“恐ろしい切開”が始まるのを見ていられずに目を閉じました。乳房に小刀が切り込まれると、私は金切り声をあげ、叫び続けました。死ぬかと思うほどの激痛でした。胸の骨にナイフがあたり、ゴリゴリとこそげます。私は持てる勇気のすべてを奮い起こして耐えました。手術が終わると、善良なラレー先生の顔が見えました。私と同じくらい青ざめた彼の顔には血が幾筋もたれていて、深い苦悩と不安と恐怖に近い感情が浮かんでいました。

手術に動揺するのは外科医も同じで、外科医ジョン・アパネシーは、手術室に歩いて行くときには“絞首台に向かう”ような気持ちになり、特に悲惨な手術のあとは、涙を流したり、嘔吐することもあったといいます。

■現在の麻酔の役割

麻酔とは、手術中に意識をなくし、手術の記憶を残さないようにしているだけではありません。手術の切開や刺激は強烈なものです。麻酔のもう一つの役割は、鎮痛薬や局所麻酔薬を使って、この手術刺激を抑制することにより、高齢者や合併症を持った方でも、手術ストレスから命を守ることにあります。

麻酔科医は、患者さんの状態、病歴、手術内容から最も安全な麻酔方法を選択し、術中は患者さんの状態に絶えず気を配り、手術が安全に行われるように全身管理を行います。さらに、術後の痛みを最小限にすることによって回復を早める手助けをします。

手術は今でも、不安で恐ろしい体験です。しかし、麻酔のなかった時代に比べると、格段の進歩を遂げたということができます。

今後も、患者さんが安心して手術を受けられるように、努めていきたいと思います。

独立行政法人 労働者健康福祉機構 関西ろうさい病院
尼崎市稲葉荘3−1−69 TEL 06−6416−1221（代）
HP http://www.kanrou.net/
ブログ http://www.kanrou.net/blog
発行人 林 紀夫 編集人 田中 陽子